

しきしま



勧進帳の「弁慶」



廓文庫敷島物語の「しきしま」

「にらみ」と「ながし目」

館長 比田井 克仁

東京オリンピック・パラリンピックに向けて江戸文化が脚光を浴びていますが、「浮世絵」「歌舞伎」は代表といえるものでしょう。当館には1,200点を越える「浮世絵」が所蔵され、その中から役者絵を特集した企画展「THE役者絵-国周の世界」を9月9日から10月9日まで開催し好評を得ています。

上の写真は最後の浮世絵師といわれた豊原国周(くにちか)の代表作で、幕末から明治にかけての歌舞伎二大立役者であった九世市川團十郎演じる勧進帳の「弁慶」、三世澤村田之助演じる廓文庫敷島物語の「しきしま」です。団十郎家のお家芸である「にらみ」と稀代の女形(おやま)といわれた三世澤村田之助の艶やかな「ながし目」が歌舞伎の特徴をよく表しています。「廓文庫敷島物語」の作者河竹黙阿弥の墓は上高田の源通寺にあり、六世澤村田之助氏は区内在住で中野区とのゆかりもあります。

文化財よもやま話

こいのぼりと中野

～端午の節句にまつわる童謡から～

4月19日(火)から5月31日(火)まで企画展「五月人形」を開催し、金太郎と端午の節句にまつわる童謡を特集しました。

「屋根より高いこいのぼり」でおなじみの「こいのぼり」(作詞：近藤宮子、作曲者不明)、同タイトルで文部省唱歌の「鯉のぼり」(作詞者不詳、作曲：広田瀧太郎)、また「柱のきずはおととの五月五日の背くらべ」で知られる「背くらべ」(作詞：海野厚、作曲：中山晋平)も歌ったことのある方が多いのではないかと思います。

近藤宮子が作詞した「こいのぼり」は、長らく著作権が日本教育音楽協会のものでされていましたが、昭和56年に当時の協会元会長が、著作権の消滅期限が近づいた作品を自分の作詞であるとして登録したことで裁判に発展し、有名になりました。裁判は近藤宮子の勝訴となっています。

作詞を依頼したのは宮子の父親で、国文学の権威だった藤村^{つむら}作です。その弟子で国文学者であり、宮子の夫となった近藤忠義は治安維持法で昭和19年に検挙され「中野の刑務所」にいられていました。終戦後の昭和20年8月17日に「一刻も早く帰れ」と言われ、同月27日に「布団をしょって中野駅まで歩いて帰った」のだそうです。

このように間接的ではありますが、童謡「こいのぼり」と中野は関係があるのです。



熊と金太郎

大地に眠る歴史

中野区の遺跡 (14)

65号に引き続き、中世から近世にかけての中野区の遺跡を紹介したいと思います。当時の中野の様子を伝える数少ない遺跡の一つに、その頃の江古田の中心的集落であったと考えられる御嶽遺跡(現在の江古田1丁目)があります。これまで2度の発掘調査が実施され、出土した磁器やかわけの属する年代から、15世紀末から17世紀まで営まれた集落であったことが明らかになりました。

15世紀から17世紀といえば、室町時代から戦国時代、安土桃山時代を経て江戸幕府が開かれるという大河ドラマでもなじみ深い時期にあたります。一方、普通の人々の暮らしは、テレビドラマでとりあげられる機会はなかなかありません。当時は農村であった江古田での暮らしとは一体、どのようなものだったのでしょうか。

今回は、御嶽遺跡から見つかった当時の人々の

信仰に関する遺構や遺物についてご紹介します。



御嶽遺跡出土銅鏡 (15世紀末)

まず特筆すべきは、御嶽遺跡のもっとも古い段階(15世紀末頃)の頃のものと考えられる馬の墓です。埋葬された馬の骨は、銅製の鏡を

伴っていました(写真)。鏡の上部には紐を通す穴がけられていたことから、馬の首にかけられていたのでしょうか。馬を祀る儀式が行われたと推測されます。

銅鏡は、17世紀頃の地下式坑からも見つかっています。地下式坑からは他にも鉛製の疑似銭(寛永通宝)や壺などが出土しており、何らかの祭祀のための施設であったと考えられます。中世の民間信仰については未だ不明なことが多いなか、これらの遺構や出土品は、当時の農民達の思想や信仰を物語る貴重な痕跡として注目されています。

また、御嶽遺跡のあたりに寺院があったことも、発掘調査の結果から明らかになりました。古い記録から、その寺院は、現在では江古田3丁目に所在する東福寺であるともいわれています。現代まで残る中世の痕跡です。資料館からの帰りに、足を運んでみてはいかがでしょうか。(つづく)

古文書つづり

有るところには 有るもので

…かまどには 火気吹き立てず 甑には 蜘蛛の
 巣かきて 飯炊く ことも忘れて (煮炊き台に火の
 気がなく、蒸し器には蜘蛛の巣が張って飯を蒸す
 ことも忘れ) …しもと取る 里長が声は 寝屋戸ま
 で 来立ち呼ばひぬ (ムチを持った役人が寝床ま
 で来て呼んでいる) …〔本文：『萬葉集』新日本
 古典文学大系より。現代語訳は一部改変〕

重税に苦しむ人々の哀切を詠った山上憶良「貧窮問答歌」の、特に有名な一節です。

最近はさておき、江戸時代の農村が劇や小説に登場する場合、上の歌のような姿で描かれることがほとんどでした。その影響を受け、江戸時代の農村といえば重税と貧困そして百姓一揆…といったイメージをもつ方が多いようです。しかしながら実際にはそればかりでもありませんでした。

写真は山崎家文書から婚礼献立。メイン・別席・夕食の献立を全長177cmに涉って書き上げたみ

ごとなものです。山菜や漬物といった手近なもの以外に、カラスミ・鯛の浜焼き・カモ・松茸など現在では高級な食材まであって驚かされます。

もちろんこれは有力者の結婚という一大イベントの折のもので毎日常とした生活だったわけではありませんし、税の滞納による破産があったことも確かです。が、一方でこうした豪華な食事もありえたのが江戸時代の農村の実状でした。

百(たくさん)と姓(人民)とを合わせたのが「百姓」であり、本来は一般の人すべてを指したというのは何とも意味深長ではないでしょうか。



▲ 山崎家文書より婚礼献立 (年不詳)

中野往来

筆塚と戸村直衛

(筆塚：南台3-43-2 宝福寺境内)

宝福寺の境内に入っすぐ右手に「筆塚」があります。子弟の使用した毛筆を納めて供養し、学業上達を願ったものと思われるこの塚は、明治の初めに建てられたと考えられます。

「筆塚」の文字は、幕末から明治期にかけて中野の初等教育に尽力した戸村直衛が書いたものです。戸村は幕末或いは明治3年(1870)、雑色村に「戸村塾」を開いた人物です。

江戸時代以来、庶民教育の役割を担っていたのが寺子屋でした。明治5年に文部省は、寺子屋を私学と家塾(教師の免状を持たないもの)に分けました。中野にあったのは家塾のみで、記録によると明治7年当時の家塾数は9ヶ所で、戸村塾はその一つでした。教場は雑色村の宝福寺や村内の民家、学科は読書・習字・算術で、「手習い」を主にし「往来物」などが教科書として用いられました。戸村は、明治8年中野区最初の公立学校、桃園学校設立にあたり寺子屋師匠から抜擢されて、

教師(授業生)として迎えられ、明治12年まで勤めました。

桃園学校を退職した後、私立小学戸村学校を開校し、再び雑色村の子弟の為に教育指導を行いました。明治5年学制が敷かれ、公立学校が設立され始めてからしばらくは、家塾から変わった戸村学校のような私立学校が公立学校の不足を補っていました。(明治13年に中野には、私立小学校が9校ありました。)さらに、互選されて豊多摩郡私立小学校組合幹事となり、郡内私立小学校の教師たちに授業技術についての指導をしています。このように戸村直衛は、一生を中野の庶民教育に捧げた人でした。



事業報告

各種事業経過

2015年10月～2016年9月

事業名	内 容	期 間
企 画 展	「婚礼～めでたいお祝い」 「おひなさま」 「五月人形」 「記念～先人たちの残したもの」	10/9～11/29 2/16～3/19 4/19～5/31 7/12～9/8
特 別 展	「山崎家の絵画」 「富士見町遺跡と雑色村」 「写真でつづる昭和30年代」 「震災と報道」	11/27～12/26 1/15～2/14 4/1～5/8 6/1～7/16
夏 休 み 座	体験イベントれきみんサマーフェスタ 「むかしの遊び工作」「むかしのくらし体験」「江戸紋切りランタン」「消しゴム篆刻」 「切り絵ブックカバー」「押し絵の壁飾り」「勾玉づくり（4回）」	7/21～8/31
講 座	古文書講座 講師：笠原綾氏、大友一雄氏 伝統文化体験教室「講談教室」 講師：神田山緑氏	10/3～11/14 11/28～12/12
公 開 事 業	秋季「山崎家茶室書院公開」 春季「山崎家茶室書院公開」	10/1～11/29 4/23～5/8
埋 蔵 財 対 応	中央一丁目40番民有地試掘（2015/4/3） 上高田五丁目13番民有地立会（4/21） 新井四丁目27番民有地試掘（4/27） 中野六丁目16C 棟民有地立会（4/30） 中野六丁目16A 棟民有地立会（5/20） 沼袋二十丁目27番民有地立会（5/21） 江原町二丁目21ABC 棟民有地立会（5/26） 江原町二丁目25番民有地立会（6/1） 弥生町五丁目2番民有地試掘（6/2）国庫補助 江原町二丁目17番民有地試掘（6/8）国庫補助 弥生町五丁目11番民有地試掘（7/2） 中野一丁目33番民有地立会（7/6） 白鷺二丁目29番民有地立会（7/8） 弥生町四丁目7番民有地試掘（8/3） 中野六丁目16番民有地立会（8/20） 本町五丁目23番民有地立会（8/24）	本町六丁目16番民有地立会（9/30） 弥生町五丁目2番民有地立会（10/15） 弥生町五丁目12番民有地試掘（11/6） 本町五丁目33番民有地立会（11/17） 江古田一丁目19番民有地試掘（12/14～15）国庫補助 江古田三丁目14番民有地立会（2016/1/8） 江原町二丁目23番民有地試掘（1/21）国庫補助 江古田三丁目14番民有地試掘（2/2） 弥生町四丁目7番慎重工事（2/15） 江古田二丁目17番民有地立会（2/16） 本町四丁目13番民有地立会（2/17） 中野一丁目33番民有地立会（2/18） 江古田三丁目3番確認調査（3/2～3）国庫補助 上高田四丁目5番民有地試掘（3/3） 松が丘一丁目34番確認調査（3/8）
そ の 他	小学校総合学習見学 25校	

寄贈資料一覧

2014年4月～2016年4月

敬称略：受入順

資料名	点数	氏名
ひな人形	一式	宮台 マサ子
一斗だる	1	弘田 知子
大工道具	一式	安藤 康弘
絵馬	182	酒井 得子
日本海軍軍旗	1	井上 和子
花崎家資料	一式	花崎 明平
上皿てんびん、手秤	3	西條 敏子
ひな人形、五月人形	一括	村松 和枝
江戸消防着	3	関根 勝彦
ひな人形、ひな道具	一式	有川 貴子

資料名	点数	氏名
カメラ	一式	蔵部 清人
アルバム、印画紙ほか	15	西松 南洋
筭、髪飾りほか	6	南雲 セエ子
畳土台の下駄	1	細井 郁子
経営資料	一式	矢島 鎗司

発行年月日 2016年10月1日

編集・発行  山崎記念 中野区立歴史民俗資料館

〒165-0022 東京都中野区江古田4-3-4

☎ 03(3319)9221 FAX 03(3319)9119